



ドリスタカップ 2021プロボウリング男子新人戦

8月26日・27日
ドリームスタジアム太田



▲出場資格や競技フォーマットの変更なども味方にして、初優勝にたどり着いた水野

巡ってきたラストチャンスを生かし 水野耕佑が5年目の初タイトル



▲無観客開催のため会場には来られなかったが、「大会中もこまめにメッセージをもらった」父親(成祐プロ)へうれしい優勝報告

ドリスタカップ2021プロボウリング男子新人戦は、8月26、27の両日、群馬県太田市のドリームスタジアム太田で行われた。男子の新人戦は、従来デビューから3年目までが出場資格だったが、今年は5年目までに延長され、56期から59期までの36選手によって争われた。その変更で出場権を得た56期の水野耕佑(アイキョーボウル)が、チャンスを生かして初タイトルを獲得した。(主催：(公社)日本プロボウリング協会 特別協賛：ドリームスタジアム太田)



▲「最後のことで優勝を狙っていたけど、詰めが甘かった」と、3位にとどまった吉野

リットをカバーできずオープンを作ると、逆に水野の7フレはラッキーなピンアクションで2つめのターキー。「決めにいった」8フレはスプリットでオープンとなったが、勝負に影響はなく、221:190で制した水野が初タイトルを獲得した。

◎アマチュアの部

28名によって争われたアマチュアの部は、1位通過の宮澤拓哉選手(パークレーン高崎)と2位通過の斎藤祐太選手(江の島ボウリングセンター)の実力者2名が優勝決定戦で対決。2017年の新人戦ではプロを抑えて総合優勝の実績もある宮澤選手が、ゲーム後半のストライク合戦を258:237で制して優勝を飾った。



▲「優勝決定戦の序盤は緊張して内ミスが多く、どうなるかと思った」と宮澤選手。しかし5フレから庄巻のオールウェーでアマの部を制した

ラウンドロビン半数の4名を59期が占める

出場資格の変更により思いがけず出場の機会を得た56期組の吉野浩章が、予選(10G)、準決勝(4G)を快走、3167の

1位で決勝に進出、2位にも56期の水野が3143で続いた。一方3位の坂本就馬のほか、4位の土方捷、6位の伊吹太陽、8位の田中稜也と、決勝ラウンドロビン進出8名中4名を、今年デビューの59期が占めていた。

出場資格とともに変更となったのが競技方法。前回までは決勝ラウンドロビンで最終順位を決定していたが、今年はTV決勝(上位3名が進出)が設けられた。しかも1位残りの選手が負けた場合は、再決定戦が行われるため、トップシードを取ることで、優勝への大きなアドバンテージとなる。

そのトップシードを争ったのは吉野と水野。総当たり戦7

Gを終えてトップの水野と2位の吉野は27ポイント差。ポジションマッチで勝った方がトップシードだったが、水野が終盤のフォースで突き放した。ポジションマッチを前に3位の坂本と4位の伊吹は59ポイント差があり、坂本のTV決勝進出は堅いかと思われたが、ストライクのつながらぬ坂本を、フィフススタートの伊吹が223:184で下して、10ポイント逆転して最後の席に滑り込んだ。

伊吹がビッグゲームで再決定戦に持ち込む

吉野と伊吹の3位決定戦は、1フレ③をスペアミスでオープンを作った吉野が、その後もレーンを攻略できず183に終わったのに対し、1フレから6フレまで快調にストライクを連発した伊吹が220で制して、水野への挑戦権を手にした。

●TV決勝ステップラダー



●再優勝決定戦

伊吹 太陽	9	20	49	69	87	107	126	135	153	170	190
水野 耕佑	1	30	58	78	98	128	155	174	183	202	221

●優勝決定戦

水野 耕佑	1	20	40	67	85	93	113	131	140	159	168
伊吹 太陽	1	30	59	79	99	129	159	189	219	249	278



▲「2カ月ほど前に手を痛め、出場を見合わせることも考えた」という伊吹だが、あと一歩で初タイトルを逃し、悔しさも...

優勝コメント



■ 水野耕佑

ドリームスタジアム太田は、一昨年の新人戦で準優勝、昨年のドリスタメンズカップは3位と、優勝こそできなかったけど相性がよくて、自信を持って臨むことができた。と

くに、本来なら出場権のないところを出場資格が5年に延びて、これは一昨年のリベンジのチャンスももらったと思った。トップで残ると1G負けても再決定戦のアドバンテージがあるので、トップシードにはこだわっていたけど、結果的にそれが生きた。タイトル数では1で父と並んだけど、レギュラーツアーでも勝てるように、さらに頑張りたい。(優勝ボール: HAMMER・レジェンズスター ウェブパール)